



「本で楽しむ🏠たても物語」



町にひっそりとたたずむ温もりのある住宅や、心に残るレトロなお店、または有名な建築家による華やかな施設など、建物は、人が集まったり住み続けて手をかけることで長く生き続けます。時代ごとに趣向をこらしたデザインを見るのも楽しいですね。本を通して気に入った素敵な建物に出会ったあとはぜひ訪れてみてください。散歩のガイドもあわせて展示しました。

(原真由美)



辻村深月『東京會館とわたし』毎日新聞出版 2016

大正11年創業の東京會館(丸の内)は、当時夢が生まれる場所でした。ルネサンス様式の外観、大理石のロビー、バンケットホールに輝くシャンデリア、そして大食堂の料理の美味しさ。物語には、海外ヴァイオリニストのコンサートや灯火管制下の結婚式、関東大震災、空襲、GHQの接収をくぐり抜け、新館へと建て替えられた現在まで、ここに集う人たちの喜びと哀しみが綴られています。建物が見守り続けた物語です。

西岡常一『木に学べ 法隆寺・薬師寺の美』小学館 1991

宮大工棟梁、西岡常一は法隆寺、薬師寺の再建に携わり、飛鳥時代の優れた技術を現代に甦らせた人物。「木というものは自分で呼吸しておるんです」と言うように、木材は湿度により収縮して湿気を防ぎ、癖や性質を生かして組み合わせれば、永い年月にも耐えられる優れた資材です。神社仏閣をたずねたら、その建築に触れ、職人たちの手によって引き継がれてきた技のぬくもりを感じたくなります。



松家仁之『火山のふもとで』新潮社 2012

ぼくが入所した設計事務所は、毎年夏の間、浅間山麓にある別荘「夏の家」で仕事するのが慣習。かつてフランク・ロイド・ライトに師事した建築家・村井俊輔のもと、秋に控えた「国立現代図書館」の設計コンペに向け若者たちは研鑽に励みます。避暑地の澄んだ空気や鳥のさえずり、木々のまぶしさなどの情景が清々しく描かれ、村井の姪、麻里子も手伝いに加わり、ぼくとの距離も深まるひと夏の物語です。



〈散歩のおともに〉



「かながわ昭和たても散歩」編集チーム『かながわ昭和たても散歩』

神奈川県建築士会 2022

菅野裕子・恩田陸『横浜の名建築をめぐる旅』エクスナレッジ 2021

増田彰久『西洋館を楽しむ』(ちくまプリマー新書) 筑摩書房 2007

〈懐かしい住まい〉

宮崎駿著・和田久士写真『トトロの住む家』増補改訂版 岩波書店 2011

中島京子『ちいさいおうち』文藝春秋 2010

三上延『同潤会代官山アパートメント』新潮社 2019

